

アイスピグ工法を公開



アイスシャーベットを注入

平地部にある同工事は、アイスシャーベットを注入から管の洗浄までを完了させ、堆積物を排出した。

東亜グラウト工業

短時間で下水道管の汚れ排出

東亜グラウト工業は11日、長野県内で初めて下水道管内の洗浄にアイスピグ管内洗浄工法を導入した。松本市発注の「圧送管緊急清掃工事」の施工現場を公開した。35

の高低差があり、汚泥の付着などで流下能力が著しく低下した長さ913m、径100mmの下水圧送管に採用。同工法では国内最大規模の洗浄長さ50分という短時間で洗浄に使用する特殊アイスシャーベットの注入から管の洗浄までを完了させ、堆積物を排出した。

マンホールポンプの力で35mの高さまで下水を押し上げ、自然流下させている区間を対象に実施した。同区間は2001年に敷設されて以来、急勾配の影響により汚泥などの付着物で管内が閉塞し、1分当たり0.177立方mとしていた計画流量が0.1を下回る数値に低下していた。

市は、流下能力を回復させるため、マンホールポンプのオーバーホールと圧送管の洗浄を計画。アイスピグを回収した。市上下水道局下水道課

の担当者らは、時間の経過とともに汚泥を含んだ黒いアイスピグが徐々に透明に変化する様子を目の当たりにし、「多くの汚泥が抜けた気がした。後日、どの程度改善されたか計測したい」と期待を込めた。今回の工事では、アイスピグ工法協会中部地域協会(会長・相澤宏暢山越代表取締役)の山越(名古屋市)がアイスシャーベットを製造し、協力会社として施工にも携わった。